年金資産を用いた老齢基礎年金繰り上げの意思決定の分析とそれが高齢期の生活水準に与える影響

山本 航*
東京大学大学院経済学研究科博士課程

2012 年 4 月 23 日

概要

本論文において私は年金の繰り上げの意思決定と、その制度の利用の有無が高齢期の生活水準に与える影響について分析を行う。年金の繰り上げとは、簡潔に説明すれば一年当たりの受給額が減る代わりに普通より早く受給を開始できるという制度であり、海外、国内問わずそれを扱った実証研究が存在する。分析者の目的に応じていくつかのタイプの実証研究が存在するが、本質的にこれは「自分は繰り上げすると得か？それとも損か？」という個人レベルの経済的インセンティブの問題に帰着すると考えられるので、私は基本的に年金資産を使ったアプローチを取る。これは繰り上げした場合と通常受給した場合とでの年金資産の差を説明変数として、繰り上げ受給の有無に回帰するというやり方で、アメリカではこうした方法を使った研究が存在する。一方で国内での年金繰り上げの文脈においては、「逆選択」が重要なトピックになっており、その議論も取り入れるべきである。そこで私は主観的割引率、主観的生存率を用いた基礎年金資産を計算することで、両者の良いところを合わせた指標を作成することを図った。それを可能にしたのが日本の新しいミクロデータである「暮らしと健康の調査 (JSTAR)」であり、推定結果からは実際に繰り上げの経済的インセンティブが制度の利用にプラスに効いていることが明らかになった。

また、繰り上げする人と、しない人で生活水準に違いがあるのか？というのも興味があるトピックである。制度を利用している人、していない人で消費額がどれほど違うか？ということを推定することで間接的にこれを調べ、利用している人はそうでない人に比べ有意に消費水準が低いということを明らかにした。一方、政策的には年金繰り上げ自体が消費水準に悪影響を与えているのではないか？という Treatment Effect こそが注視されるべきである。そこで繰り上げの意思決定の推定を利用して Treatment Effect Model を推定したところ、年金の繰り上げを行ったことによって有意に消費額が減っているという結果を得た。まとめると、これらの結果より、繰り上げをしている高齢者はそうでない人より一般に生活水準が低く、さらに繰り上げそのものによってもその生活水準が低下するということが示唆される。

* waterloo521@yahoo.co.jp